

## 生駒市緑の基本計画改定懇話会 第3回全体会 議事要旨

### 1. 日時

令和7年7月18日(金)14時00分～16時30分

### 2. 場所

生駒市役所 302会議室

### 3. 出席者

【参加者】久隆浩、下村泰彦、松本光朗、木村篤信、田村康一郎

【事務局】みどり公園課 米田部長、高橋課長補佐、深瀬

(株)ヘッズ 田中、稲熊、岡本

### 4. 傍聴者

なし

### 5. 議事要旨

#### (1) 開会

- ・ 担当課より挨拶

#### (2) 案件

- ・ 座長により進行
- ・ 緑の基本計画の改定について資料説明を事務局から行い、その内容について意見交換

#### ① 改定素案について

##### ●全般について

- ・ 市役所全体として、緑をどのように位置づけて、保全・活用していくのかという観点があればよい。みどり公園課だけで引っ張っていくのではなく、他部局が主体的に動くものに緑側からサポートする、オール市役所で頑張るという意思表示があるとより充実すると思う。

##### ●計画の目的と背景について

- ・ 航空写真について谷内田が森に戻っていく様子は、環境としてどのような状態を目指しているのかによって評価が全く変わってくる。

##### ●本計画における緑について

- ・ 『緑』と『緑地』という表現があるが、使い分けについて今一度チェックしていただきたい。オープンスペースや広場といった言葉とあわせて、本計画での定義を整理していただくと分かりやすくなると思う。

##### ●本市の緑を取り巻く動向について

- ・ 協創につながる話題について、「(2)行財政資源の収縮・・・」を見出しにすると行政ではできなくなったというように見えてしまう。行政がしんどくなってきた一方で、近年は市民ももっと積極的に関わっていきこうという動きがある、というように前向きな書きぶりにしていただいた方が協創の考え方に繋がると思う。

##### ●生駒市の緑の課題、改定の視点について

- 課題と改定の視点について、前後との繋がりが悪い。社会情勢の変化も踏まえたうえで整理されているはずであるが、そのプロセスが示されていない。社会情勢で整理している動向を補強する必要がある。
- 緑の将来像について
- 緑の将来像図の根拠として、市域における緑の骨格軸やネットワークが重要であるので、現行計画でも示されている環境、レクリエーション、景観、防災の4系統の緑の配置状況を整理しておく方がよい。
- 推進体制について
- すべてを緑のリビングラボが担うわけではない。他にも推進体制はあるはず。
  - 緑のリビングラボを通じて生じる個々の動きを、行政としてモニタリングやトレースできるように、総まとめしてマネジメントできるようにしておく必要があるのではないか。
  - 行政は、プラットフォームビルダーとしての役割を担うことをきちんと書いておくべき。
  - リビングラボは実験の場であると同時に、実装が必要。この、実装をどのように実現していくか、そこにプロセスが必要であり、そのことを明記していただきたい。
  - 多様な主体による推進体制のイメージについて、市民と言っても、地権者や農林業従事者などと、サラリーマンとでは緑との関わり方は違う。そのあたりを丁寧に表現するとよい。
  - 推進体制について、将来どうあるべきかという目標像が無ければ市民協働はできない。組織体制の最終形を示すだけでなく、組織が育まれ充実していくプロセス、すなわち初動期はこんな感じだが徐々に充実して発展していくといったプロセスを示しておくだけでもよい。
  - カタカナ用語を使う際は、あえてその言葉を使う意図を整理しておくべき。
  - 協創の取組を上げていくにあたり、まず知ること、楽しいことを入り口にすることは良いが、そこから本当にやらなければならないことへ繋げていくことをしっかり書いておくべき。
- 計画の目標について
- 指標と具体的取組との繋がりが見えづらいため、そこを整理すれば計画全体の骨格として完成度が上がると思う。
- ② 具体的取組、重点施策について
- 協創の取組について
- 「まもる」「はぐくむ」「いかす」の取組と協創の取組とのマトリクスで確認し、本当にやるべきことで抜けが無いチェックしていただいた方がよい。
  - インフラとして維持できていない要因となっているボトルネックに対して、リソースが足りていないことをチェックする意味で、マトリクスで取り組みを確認することはよいと思う。そのうえで、どこを行政主体もしくは協創でやっていくかを確認できるのではないか。
- 具体的取組について
- 今回の資料の内容は、現在実施されている取組を列挙しているように見える。これから10年先までの計画という性格を考えた時に、状況に応じて変わっていく取り組みもある中で、書き込みが詳細すぎて縛られてしまう恐れがある。計画としては方針程度でよい。
  - 森林の項目で、森林整備計画は必ず入れていただきたい。
  - 森林整備計画では、里山林は森林に含まれている。
  - 森林、里山林、樹林地の区分については、根拠法を一つの参考として考えると整理しやすいかもしれない。

- 各基本方針に紐づく具体的取組の仕分けとしては、緑そのものを対象としている取組については「緑をまもる」「緑をはぐくむ」、人の生活に作用する取組については「緑をいかす」というように考えると良い。

●緑化重点地区について

- まちづくりの進捗状況について確認されたうえでの地区設定であれば問題ない。
- ここで示すべきことは、各緑化重点地区で目指すべき方向性である。

6. 閉会

- 事務局より今後の案内

以上